

敦賀地区における新体制

敦賀事業本部長（副理事長）が交代し、今後は以下の体制で、一丸となって業務運営に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い致します。



児玉 敏雄
・理事長
・もんじゅ再生本部長



田口 康(新任)
・副理事長
・敦賀事業本部長
・もんじゅ再生本部長代理



吉田 信之
・理事
・敦賀事業本部長代理
・高速炉研究開発部門長



青砥 紀身
・理事
・高速増殖原型炉
もんじゅ 所長



家田 芳明
もんじゅ運営計画・研究
開発センター長



関野 英夫
敦賀事業本部 副本部長



高山 宏一
敦賀事業本部 副本部長



高橋 秀孝
原子炉廃止措置研究開発
センター所長

「もんじゅ」における保安検査の結果について

8月5日、原子力規制委員会において、原子力規制庁より平成27年度第1四半期保安検査の実施状況が報告され、『もんじゅにおいて「違反」に該当する事象（保守票等の処置手順不履行*）及び「監視」に該当する事象（炉心の温度に関する一部記録の紛失）が、確認された。』とされました。

*保守業務については、処置手順に不履行があった紙の帳票による管理の他にコンピューターシステム上でも管理されており、これに基づき補修等の実務は行われていたため、本件が原子炉施設の安全に影響することはありません。

今般の事案は、「もんじゅ」における日々の保安活動の中で自ら不適合として確認して改善活動を実施してきたものですが、当機構としましては、品質マネジメントシステム等の改善・定着がいまだ十分でないものと重く受け止めています。

引き続き、これまでの指摘への対応を確実に実施するとともに、より良い保守管理を実行していくため、品質保証体制等の改善に向けて最大限注力し、早期の保安措置命令解除を目指してまいります。

● 本資料に関するお問合せ先 ●

日本原子力研究開発機構 敦賀事業本部 業務管理部広報課

Tel : 0770-21-5023 Fax : 0770-25-5782 ホームページアドレス <http://www.jaea.go.jp>

発行：平成27年8月



原子力機構 敦賀事業本部からのお知らせ

ご挨拶



田口 康
国立研究開発法人
日本原子力研究開発機構
副理事長
兼：敦賀事業本部長
兼：もんじゅ再生本部長代理

平素より、原子力機構の事業に対しまして、ご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。8月4日付で敦賀事業本部長（副理事長）に就任しました田口です。地元福井県の皆様には、昭和43年に新型転換炉「ふげん」、昭和45年に高速増殖原型炉「もんじゅ」の建設地を敦賀市に決定して以来、長きにわたり、深いご理解とご支援を賜り、感謝申し上げます。

原子力は、我が国のエネルギー基本計画においてベースロード電源として位置付けられる重要なエネルギー源です。一方、東京電力福島第一原子力発電所の事故により、原子力の安全性に対する国民の不安が増大しています。このような状況の中、我が国唯一の原子力に関する総合的研究開発機関である当機構の果たすべき役割は重大です。安全研究や放射性廃棄物の処理処分を含む核燃料サイクルの研究開発等に今まで以上に力を入れて取り組んでいく必要があります。

「もんじゅ」につきましては、原子力規制委員会より重い指摘を受けるなど皆様には大変ご心配をお掛けしておりますが、「もんじゅ」を安全に稼働させ、高速増殖炉技術の確立及び放射性廃棄物の減容・有害度低減技術の開発という本来の目的を達成することが原子力機構の重要な使命です。このような時期に、もんじゅ再生本部及び敦賀事業本部の運営に当たることとなり、大変身の引き締まる思いです。

原子力機構は「もんじゅ改革」に全力を挙げて取り組んで来ており、この4月より改革の定着とより高い安全・安心を目指す「定着と再生フェーズ」に移行いたしました。敦賀事業本部長として着実にこの改革を進め、安全を最優先に現場の一線で指揮を執り、経営と現場が一体となって原子力規制委員会による保安措置命令の早期解除及び再稼働を目指して参ります。また、「ふげん」につきましては、レーザによる切断技術の応用など、着実な廃止措置と研究開発に取り組み、福井県内をはじめ先進各国で今後本格化する軽水炉の廃止措置に貢献して参ります。

原子力機構の使命達成に向け、透明性を確保しつつ、安全を最優先に事業を推進して参ります。福井県の皆様には引き続き、ご支援をいただきたくお願い申し上げます。

<略歴>

- 昭和60. 3 名古屋大学工学部原子核工学科卒業
- 平成12. 6 科学技術庁 原子力局 政策課 立地地域対策室長
- 16. 1 文部科学省 科学技術・学術政策局 地域科学技術振興室長
- 18. 1 理化学研究所 次世代スーパーコンピュータ開発実施本部 企画調整Grディレクター
- 19. 9 文部科学省 研究振興局 研究環境・産業連携課長
- 21. 7 文部科学省 研究開発局 原子力計画課長
- 22. 4 文部科学省 研究開発局 環境エネルギー課長
- 24. 4 文部科学省 研究開発局 開発企画課長（併）研究開発局参事官（宇宙航空政策担当）
- 26. 1 文部科学省 大臣官房 政策課長
- 27. 1 文部科学省 大臣官房審議官（研究開発局担当）
- 27. 8 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 敦賀事業本部長（副理事長）

日本の未来が豊かで安心できるものであるために… 高速増殖炉を開発する意義と「もんじゅ」の役割についてお知らせします。

日本原子力研究開発機構は、我が国で唯一の原子力に関する総合的な研究・開発機関として、高速増殖炉の実用化に向けた取り組みを行っております。
今回は、我が国において高速増殖炉を開発する意義と、これに必要となる高速増殖原型炉「もんじゅ」の役割についてご紹介いたします。

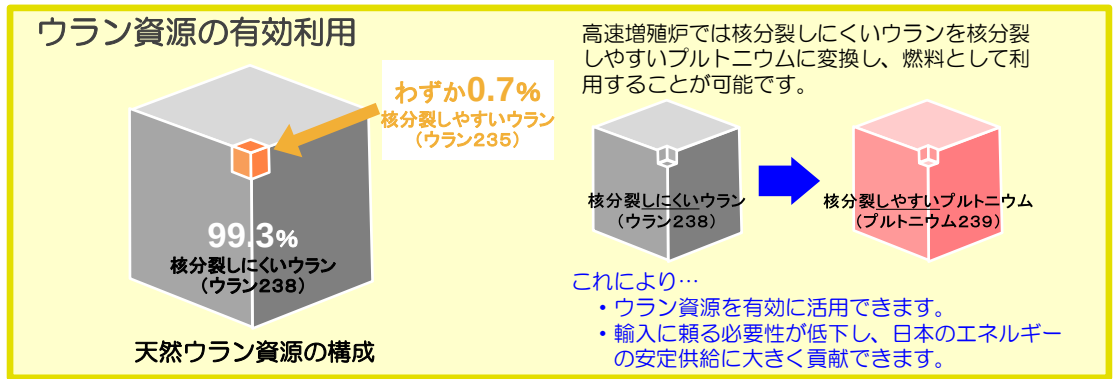
<高速増殖炉を開発する意義その1> エネルギー問題の有効な解決策です。

現在、世界の人口は増え続け、2050年には約95億人*に達すると予測されており、エネルギー需要の増大とともに、石油、天然ガス、そしてウランといったエネルギー資源の国際間の獲得競争が激しくなっていくことが予想されています。

*出典：総務省統計局「世界の統計2015」

一方、日本はエネルギー資源に乏しい国であり、必要量の90%以上を輸入に頼っています。このことは、世界の情勢が不安定になると必要なエネルギー源を確保できなくなるおそれがあることを示しています。そこで、この問題を解決するための有力な方策として開発を進めているのが高速増殖炉です。

高速増殖炉は「高速」の中性子を用いた運転（発電）により、使用したよりも多くの燃料を新たに作り出す（＝「増殖」させる）ことが特徴であり、限りあるウラン資源の利用効率を飛躍的に向上させることができると期待されています。



<もんじゅの役割その1> 実用化に向け、貴重なデータを蓄積します！

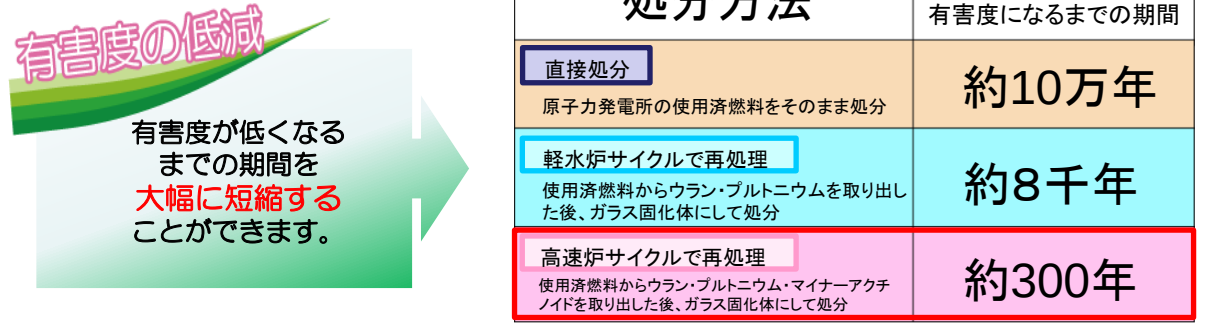
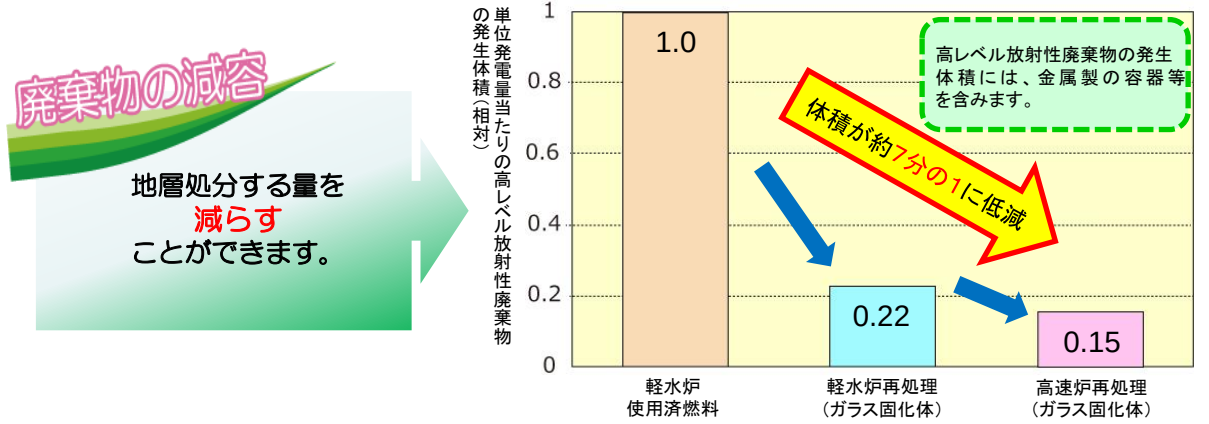
「もんじゅ」は国内で唯一の発電設備を持つ高速増殖炉の原型炉として、運転や保守の経験を通じて様々なデータを取得するとともに、東京電力福島第一原子力発電所の事故を決して忘れることなく、更なる安全性の強化を目指した研究・開発を並行して行い、後の実証炉や実用炉の開発に資することを目的としています。「もんじゅ」では、あらゆる経験が将来への貴重な情報資産になります。



<高速増殖炉を開発する意義その2> 高レベル放射性廃棄物の量や有害度を大幅に減らすことができます。

原子力発電所の使用済燃料を再処理すると「高レベル放射性廃棄物」が発生します。この廃棄物は、ガラス固化体にして地下深くに処分することになっていますが、高速増殖炉を中心とした核燃料サイクルが実現すれば、その発生量を少なくし、また、有害度が低くなるまでの期間を大幅に短縮することが可能となります。

具体的には、使用済燃料に含まれている「マイナーアクチノイド」と呼ばれる、放射能が半分になるまでの期間が数万年にも及び、寿命の長い放射性物質を高速増殖炉の燃料に混ぜて一緒に燃やすことにより、寿命の短い放射性物質に変えるというものです。



<もんじゅの役割その2> 「核のごみ問題」解決への道を切り拓きます！

高速増殖炉の原型炉である「もんじゅ」では、試験的に少量のマイナーアクチノイドを燃料に混ぜて運転すること等により、寿命の短い放射性物質への変換が期待通りになされるかを確認することができます。この能力は一般の原子力発電所（軽水炉）には無く、「もんじゅ」特有のものです。

原子力機構では、長期的なエネルギーの安定供給や高レベル放射性廃棄物の低減への貢献が期待される高速増殖炉の実用化に向けて、その原型炉である「もんじゅ」に課された役割をしっかりと果すべく、早期の運転再開を目指してまいります。

今後とも、皆様のご理解とご支援を賜れますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。